教科名	小学校　社会科	学　年	第５学年
単元名	水産業のさかんな地域	児童数	20 名
		授業者	岩田　浩平

１　単元の目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるように努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

２　単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や各種の資料を調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	・水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ・水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、適切に表現している。	・水産業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

３　自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て

⑴　考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿
- ノートやタブレット端末等自分の考えが表現しやすい方法を提示し、それらの中から選択して記述できるようにする。

⑵　他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿
- 対話場面で、対話の視点を明確に提示する。
- 自分の考えを伝え合う活動を設定し、多角的に考えることができるようにする。

⑶　対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿
- 対話を行った後に、再び課題に戻り考えを再形成できる時間を確保する。

⑷　自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿
- 本時の学習内容に適した振り返りの視点を提示し、スプレッドシートを使い、１単位時間ごとの振り返りを行う。
- 授業の導入の際に、前時までの振り返りを活用する。

４　単元で提示する振り返りの視点

①　分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）
②　今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し）
③　疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造）
⑤　単元の学び（単元全体）
⑬　友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）

５　単元の指導と評価の計画（全９時間）			
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】　評価規準
1	◆日本の水産業について知り、学習問題を考えよう。 ○　地図帳や Google Maps で十勝の漁港を調べる。 ○　水産業について知る。 ○　日本はたくさん魚を食べる国であることを知り、日本の水産業についての学習問題を考え、学習計画を立てる。	② ③	【思・判・表】 ・日本の漁業生産の変化、主な漁港の水揚げ量などに着目して問いを見出している。（発言、ノート） 【態度】 ・水産業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっている。（ノート、タブレット端末）
2	◆なぜ日本は水産業が盛んなのだろうか。 ○　地図帳を活用し、どの都道府県でも水産業が行われていることを知る。 ○　なぜ日本は水産業が盛んなのかを考え、学習問題につなげる。 ○　大陸棚や日本の海流について知る。 （評価する）	① ②	【思・判・表】 ・日本の漁業生産の変化、主な漁港の水揚げ量などに着目して問いを見出している。（発言、ノート） 【態度】 ・水産業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっている。（ノート、タブレット端末）
3	◆漁はどのように行われているのだろう。 ○　様々な漁法があることを知る。 ○　漁業の分類について知る。	①	【知・技】 ・必要な情報を集め、読み取り、漁港で行われている漁業の様子について理解している。（ノート、発言）
4	◆魚はどのようにしてお店へ届くのだろう。 ○　魚が漁港から食卓に届くまでの過程を、動画で確認しまとめる。 ○　魚の価格について知る。	①	【知・技】 ・必要な情報を集め、読み取り、水揚げされた魚がどのように消費者に届けられるか理解している。 （ノート、タブレット端末、発言）
5	◆なぜ、つくり育てる漁業を行うのだろう。 ○　海が隣接していない県で養殖されているふぐを基に、つくり育てる漁業について知る。 ○　水産資源が抱える課題について考える。 （広げてみる）	① ③	【思・判・表】 ・つくり育てる漁業について養殖業者や水産センターの人々の工夫や努力について考え、表現している。 （ノート、発言）
6	◆どのようにして水産加工品が作られているのだろう。 ○　すり身工場やかまぼこ工場の取組について調べてまとめる。 ○　水産加工品のアピールについて調べてまとめる。	①	【知・技】 ・必要な情報を集め、読み取り、水産物を加工してすり身やかまぼこなどを作る人々の工夫や努力について理解している。 （ノート、タブレット端末）
7	◆水産業はどのような課題を抱えているのだろう。 ○　漁業別の生産量の変化のグラフから読み取ったことを基に、ペアで交流し考えを深める。 ○　様々な資料を活用し、沖合漁業や沿岸漁業が減っている理由を考える。 ○　遠洋漁業が減った理由を、200 海里水域を基に考える。 ○　水産業が抱える問題について自分の考えをまとめる。 （広げてみる）	①	【思・判・表】 ・水産業が抱える問題について、自分の考えをまとめて表現している。 （ノート、タブレット端末） 【態度】 ・これまでの学習を振り返り、更に調べるべきことを考え、日本の水産業が抱えている課題を解決しようとしている。（発言）
8・9	◆日本の水産業について学習したことをまとめ、学習問題を解決しよう。 ○　単元を通した学びを振り返る。 ○　日本の水産業に関わる人たちの工夫や努力、水産業が抱えている課題について、自分の考えを発表する。 （評価する）	⑤ ⑬	【思・判・表】 ・水産業に携わる人々の工夫や努力について考え、自分の考えを表現している。（ノート、タブレット端末）